

文学館文庫『伊馬春部作品集』刊行

館長 今川 英子

八月は、六日、九日、一五日と、戦争や原爆について立ち止まって考える時間だと思っっている。戦争と人間を描いた文学作品をひもつくことにしています。

この稿を書いているときに、北朝鮮の水爆実験のニュースが入りました。前日、元長崎大学学長で核兵器廃絶運動の理論的支柱でもあった土山秀夫さんの訃報が入ったばかりです。毎年、平和宣言は丁寧を読むことにしていますが、土山さんは長い間、長崎の平和宣言起草委員会の委員であり、山田洋次監督の「母と暮せば」の主人公のモデルでもありました。その数日前、被爆者運動の中心的存在であった谷口稜暁さんも亡くなりました。

戦後七二年、戦争体験者や被爆者の方々が高齢となられ、次々と鬼籍に入り、その記憶が風化していくことを怖れます。その忘却への抗いの可能性は文学にこそあると思うのです。ことに小説作品は、戦時下を生きた人々の苦悩や葛藤、悲しみや不幸を、人間心理の奥深くまで分け入り、細やかに克明に、時には冷徹に描き、それは歴史的な事実の叙述よりも、よりリアルに真実に肉薄します。

文学館の存在意義の一つに、文学の啓蒙普及があります。つまりは多くの人々に本を読んでもいただくことなのですが、今や、内容やテーマが便利に要約されてネット上に掲載され、あるいは漫画化、アニメ化され、読んだような気になつてしまう状況が拡がっています。それを否定するものではありませんが、そういう時代にあつて、まさにアナクロニズムそのもののような「本を読む」という行為をどのように普及させていくのか、正直、途方にくれながら、文学

館のあり方への模索は続きます。

このたび開館十一年目に入り、当館について市民アンケートを実施しました。今後はその結果も踏まえながら、新時代の環境に即した文学館に向けて積極的に検討してまいります。

ところで敗戦後の荒廃した焼土で懸命に生きようとする庶民を力づけたラジオ番組、「向う三軒両隣り」の脚本家・伊馬春部（本名高崎英雄）の生家「旧高崎家住宅」（八幡西区木屋瀬）の一般公開から、今年は二〇年になります。それにちなみ文学館文庫として『伊馬春部作品集』を刊行します。

伊馬は、今年生誕一三〇年を迎えた折口信夫（釈迺空）の弟子で、同じ井伏鱒二門下の太宰治とも親友でした。太宰が昭和二三年六月、多摩川上水で山崎富栄とともに入水したときには、伊馬宛てに、太宰直筆の色紙と、『斜陽』のモデルとなった太田静子から借りた「日記」が托されていました。日本で初めてのテレビドラマの実験放送の脚本も伊馬が手がけています。ユーモア作家と呼ばれ、ほのぼのと周囲を明るくさせ、人々に愛された伊馬の作品に親しんでいただければ幸いです。

秋の特別企画展は、「生誕九〇年記念 藤沢周平展」です。江戸期の下級武士や市井に生きる人々の哀歓を、温かな眼差しで描いた詩情溢れる作品世界をお楽しみ下さい。



北九州市立文学館文庫⑫

目次

- | | | | |
|-----------------------------------|---|--------------------------|---|
| ○ 文学館文庫『伊馬春部作品集』刊行 | 1 | ○ 文学館協力事業 子ども新聞教室 | 5 |
| ○ 第24回特別企画展 上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉展 | 2 | ○ 「文学館紀要」の発行 | |
| ○ ギャラリートーク | | ○ 刊行予告 文学館文庫⑫『伊馬春部作品集』 | |
| ○ 「上橋菜穂子さんと語る〈精霊の守り人〉の世界」 | 3 | ○ 平成29年度上半期に行われた「偲ぶ会」の紹介 | |
| ○ 開会記念講話「ドラマ『精霊の守り人』を語る」 | | ○ お祝い、お悔やみ | |
| ○ ワークショップ 粘土で作る精霊のマカロンタワー | | ○ 市政モニターアンケート | 6 |
| ○ 期間限定コラボメニュー 〈バルサの食卓〉 | | ○ 第25回特別企画展開催予告 | |
| ○ 文学館セミナー | 4 | ○ 生誕90年記念 藤沢周平展 | 8 |
| ○ 出張文学講座 | | ○ 寄贈者・提供者、提供雑誌 | |
| ○ 【寄贈資料紹介】 杉田久女の机、向野楠葉資料、宗左近 愛用の机 | | | |



北九州市立文学館
第24回特別企画展

上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉展 2017.7.22[土]—9.3[日]

わたしは用心棒です。
皇子は、ひきりけました。
「精霊の守り人」より

北九州市立文学館第24回特別企画展

上橋菜穂子と 〈精霊の守り人〉展

2017.7.22[土]—9.3[日] 北九州市立文学館

開館時間 9:30—18:00(入館は17:30まで) ※22日は開館のみ、最終入館は19:30まで 休館日 7月曜日

一般 ¥500 中学生 ¥200 小学生 ¥100

※上記は北九州市立文学館の運営費。その他の費用については別途要です。

主催 北九州市立文学館

後援 北九州市教育委員会、NHK北九州放送局、朝日新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、読売新聞社、西日本新聞社、RKB毎日放送、九州朝日放送、TNCエフエム日本、FBS福岡放送、TVQ九州放送

協力 徳島県、新井社、理研社、KADOKAWA、筑業書房、青蘭女学校、日本国際児童読書研究会

企画協力 NHKエッセイブックス

企画制作 NHKエッセイブックス、北九州市立文学館

©2017 上橋菜穂子 (エッセイブックス) 2017年

今年度の夏の企画展は、いま最も支持される作家と言って過言ではない、上橋菜穂子さんと代表作〈精霊の守り人〉シリーズをご紹介します。

上橋さんは、平成26年に「小さなノーベル賞」とも言われる児童文学の最高峰、国際アンデルセン賞作家賞を受賞されました。その後も近著『鹿の王』で本屋大賞を受賞されるなど、国内外を問わず、幅広い年代のファンに愛されています。

本展では、代表作〈精霊の守り人〉シリーズを中心に、上橋さんの文学世界の源泉に迫りました。

【構成】

- Step 1 さまざまな境界、その向こう側
- Step 2 生と死の境界、究極のサイバイバル
- Step 3 〈守り人〉の世界、その多様性
- Step 4 物語とともに生きる
- Step 5 境界、そこはフロロントニア MORIBITOギャラリー

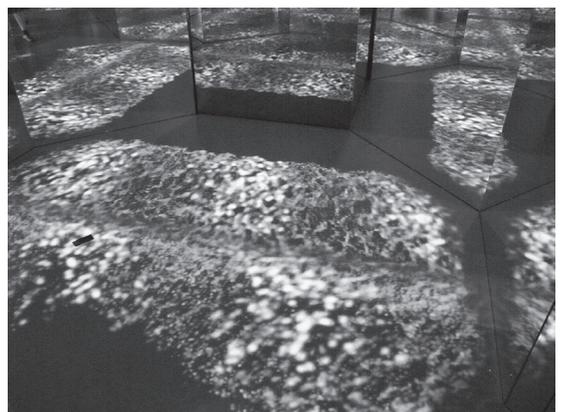
今回の見どころの一つに、映像インスタレーションがありました。〈ナユグ〉という精霊の世界を表現したものです。紙資料が多い文学展で、新しい展示を体験していただきました。

展示資料 約280点

企画協力 NHKエンタープライズ

企画制作 NHKサービスセンター、

世田谷文学館



映像インスタレーション

アンケート

・かがみのたいけんがまほうをつかえるようなかんじでした。そして、きれいとおもいました。(7歳・女子)

・上橋さんファンとしては、最高の展覧会でした。衣装の実物があって感激しました。また、ナユグの世界もすばらしかった。(50代・女性)

・上橋菜穂子さんの「精霊の守り人」がつくられるまで、どんなことがあったのか、どうやってその物語にいたったのか、がよく分かりました。(12〜15歳・女子)

・上橋先生の物語との出会いは私にとって大切な財産です。今回の企画展に来られて本当に良かったです。ありがとうございます。(20代・男性)

ギャラリートーク 「上橋菜穂子さんと語る 〈精霊の守り人〉の世界」

平成29年8月5日

接近する台風の影響も心配される中、上橋さんご自身によるギャラリートークを開催しました。

洋画家のお父様が福岡県中間市のご出身という上橋さん。「北九州地域は第二の故郷」といううれしいお話からスタートしました。

壮大な物語の数々は、心に浮かぶことを書いているので、どうして、なぜ、どうやって書いたのかご自身にも分からないそうです。ただ本展では、そうした上橋作品を生み出す心の世界的一端が見える、とお話しされました。

ご本人セレクトの目玉資料は2点。



本展準備中に偶然発見された「精霊の守り人」の最初の原稿と、高校の文化祭で上演した舞台の脚本です。この舞台は上橋さんが原作・脚本・主演を務めたほか、同級生だった女優・片桐は

いりさんの初舞台作品でもあります。「高校時代に夢見たことが形になることもある」という上橋さんの言葉が印象的でした。

企画展会場では、展示資料の一つ一つに関わる楽しいエピソードに参加者が聞き入りました。登場人物にはモデルを置かないという上橋さんですが、お母様とめぐられた世界中の旅が作品のディテールに活かしているそうです。旅の写真から「上橋菜穂子の目」についても解説いただきました。

直にお話しできるチャンスに、思わず言葉を詰まらせる参加者にも、上橋さんはユーモアを交え気さくに優しく声をかけてくださいました。上橋さんの作品の根底にある他者への想像力や寛容さをあらためて思いました。

アンケート

・いろいろな「精霊の守り人」に関する展示や、それにまつわるエピソードを聞くことができてとてもうれしかったです。小6のときに初めて読んで上橋先生にずっとお会いしたかったので叶ってよかったです！

(10代・女性)

開会記念講話 「ドラマ『精霊の守り人』 を語る」

平成29年7月22日

開会を記念し、NHK大河ファンタジー「精霊の守り人」監督の片岡敬司さんに講話いただきました。

もともと、原作のファンだったという片岡さんは、ドラマ化の企画を自ら提出。架空世界の映像化は手探りで苦労も多く、原作者の上橋さんにインタビューを重ねたと言います。

作品の目標は2つ。世界に売れるドラマを作ること、そして、「もう一つのアジア」を表出すること。国内はもとより、中国、韓国、ネパールなどで綿密な取材と調査を行ったそうです。

第1シーズンの撮影地に九州の森や渓谷が多く使われているという紹介の際は、会場からうれしい驚きの声が上がりました。

ドラマ最終章は今年11月から。原作にないエピソードは必見とのこと、放映が楽しみです。



片岡敬司さん

ワークショップ 粘土で作る精霊のマカロンタワー

平成29年8月19日(全2回)

テレビでも活躍するクリエイターティストの鈴木キナコさんを講師にお迎えし、粘土のワークショップを開催しました。〈精霊の守り人〉をイメージした先生オリジナルのマカロンタワーを作りました。



期間限定コラボメニュー 「ハルサの食卓」

企画展の開催期間中、文学館に隣接するカフェ・ラポール中央図書館で〈守り人〉シリーズの特別メニューを週替わりで提供していただきました。初めてのコラボ企画は、大好評でした。



ノギ屋の弁当風鳥飯



ラコルカ

トッコ(芋団子)

文学館セミナー

平成29年度前期

平成29年4月～6月・全6回

〇書く〓講師・後藤みな子さん

(作家、北九州文学協会理事)

平成29年度の文学館セミナーは、文章講座「書く」を開催しました。受講者は15名。原稿用紙4枚程度の短いエッセイを完成させることを目指しました。各人が日常の何気ない一コマや疑問に思っていること、子どもの頃の思い出など自由なテーマで創作し発表。同時に講師の助言を受け、推敲をしていきました。後藤先生は、作者のオリジナリティは尊重しつつ、基本的な言葉の使い方や、詳細に書いた方が分かりやすい部分などをアドバイスしていました。参加者の一人は、講座で学んだことを生かして、長い文章を書いてみたいと話していました。

出張文学講座

小倉北区京町銀天街内の北九州文学サロンにおいて、出張文学講座（昼下りの文学カフェ）を行いました。

6月9日 中西由紀子学芸員

「森鷗外が歩いた小倉」

7月7日 稲田大貴学芸員

「『無法松の一生』の譚」

8月4日 小野恵学芸員

「林芙美子と北九州」

〔寄贈資料紹介〕

杉田久女の机

ゆかりの俳句作家・杉田久女が使用したという文机です。久女の弟子の村上すみ女が、寄贈者の宮川民子さんへ贈りました。村上すみ女は久女が指導した俳句グループ「白菊会」の会員です。戦時中、疎開のため戸畑から行橋へ転居し、宮川さんとの親交が始まったそうです。机は折り畳み式、2脚寄贈いただきました。



たて390×よこ1062×高さ390mm

向野楠葉資料

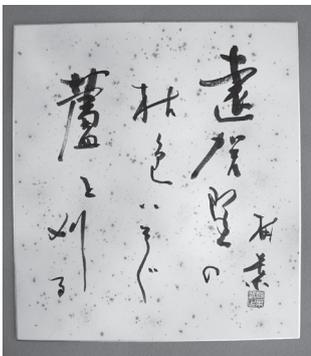
ゆかりの俳句作家・向野楠葉の旧蔵資料約四三〇点を、ご遺族の向野利彦さんよりご寄贈いただきました。

資料には、向野の句帳や日記といった貴重な自筆資料のほか、師事した皆吉爽雨をはじめ、高浜虚子、河野静雲、野見山朱鳥らの句幅も含まれています。

向野楠葉（こうの・なんよう）

一九一一（明治44）～94（平成6）、福岡県鞍手郡（現・直方市）生まれ。本名、利夫。九州医学専門学校（現・久留米大学）を卒業後、八幡製鐵所病院眼科に入局。35（昭和10）年、俳人の皆吉爽雨に師事。日中戦争応召により中国に軍医として駐留。帰国後の44年、大陸転戦時に詠んだ俳句をまとめた第一句集『柳絮』刊行。戦後、八幡市（現・八幡西区）折尾に眼科医院を開業。皆吉爽雨の主筆誌「雪解」創刊に参加し同人となる。山鹿桃郊の没後、72年より北九州の俳誌「木の実」を主宰。北九州俳句協会会長も務めた。

句集に『遠賀野』『先島』など。「木の实」連載の随想記をまとめた『若き日の日記より』もある。



遠賀野の枯色いそぐ蘆を刈る

宗左近 愛用の机

平成27年4月1日、詩人・宗左近の妻の宗香さんが逝去され、本市はその遺産の全てを御遺贈いただきました。今回はその中から、宗左近が愛用していた机をご紹介します。

一九七八年から千葉県市川市のマンションに住んでいた宗左近は、部屋の窓際に机を据え付け、執筆を行っていました。窓の向こうは江戸川が流れ、拓けた景色が広がります。この机に座り、宗は川を見て、空を眺めて執筆していたと言われています。整理の際に両袖の抽斗からは、多くの原稿類やメモが見つかり、創作の営為が偲ばれました。いつ頃から使用していたのか、はつきりしたことは不明ですが、この机から、晩年の数多くの一行詩が生み出されたことは間違いなく、詩人の息遣いを感じられる資料です。



文学館協力事業
子ども新聞教室

平成29年8月22日
小学生が文学館取材して新聞を作る教室が朝日新聞社の主催（文学館共催）で開催されました。

参加した小学生5名は、親と一緒に北九州ゆかりの文学者や企画展示、ステンドグラスなどを取材し、記事にしました。

この新聞は、来年3月に開催する子どもノンフィクション文学賞表彰式の会場に掲示する予定です。



「文学館紀要」の発行

これまでに多くの資料を収集し、研究を行ってきた文学館では、学芸員による研究成果や資料紹介などを掲載する「北九州市立文学館紀要」を今年度から年1回発行します。

創刊号は、来年3月に発行し、文学館ホームページにも掲載します。

刊行予告
文学館文庫⑫
『伊馬春部作品集』

12冊目の文学館文庫は、現・八幡西区木屋瀬に生まれ、昭和期に放送作家として活躍した伊馬春部の作品集です。ムーラン・ルージュ新宿座時代の脚本、代表的なラジオやテレビの脚本のほか、太宰治との交流や、恩師である折口信夫、井伏鱒二などについて書いた随筆も収録します。

〈収録内容〉

I 脚本、小説

「桐の木横町」、「かげろふは春のけむりです」、「夕餉前」、「レビユウ男爵座」、「屏風の女」

II 随筆

「悲劇名詞」、「七転八倒」、「ある反省」、「鉄かぶとの頃」、「びのちお」の青春、「斜陽ノートのこと」、「身辺のこと二三」、「想い出の春風駘蕩」、「朽助以後のこと」、「土手の見物人」

写真資料

「向う三軒両隣り」第一回目台本

寄稿 梅本静一

解説 棧比呂子

刊行は11月1日で、文学館や市内の書店クエストでの販売のほか、11月5日の木屋瀬宿まつりでも販売予定です。この機会にぜひお手にとり読んでみてください。

平成29年度上半期に行われた

「偲ぶ会」の紹介

北九州では文学者たちを偲ぶ集いが数多く開催されています。今年度の上半期に開かれたものをご紹介します。

第35回岩下俊作忌

4月9日 高炉台公園・岩下俊作文学碑前

第32回劉寒吉碑前の集い

4月20日 中央図書館前庭・劉寒吉文学碑前

第55回森鷗外を偲ぶ会

6月19日 紫川沿い・森鷗外文学碑前

第4回宗左近忌

6月20日 戸畑区・西日本工業倶楽部

第36回林芙美子忌

6月25日 門司区・小森江西市民センター

【お詫びと訂正】

「文学の葉」21号7頁の「平成28年度下半期に行われた文学者を偲ぶ会」に誤りがありました。左記の通り訂正し、お詫びいたします。

【誤】 第55回森鷗外を偲ぶ会（3月26日）紫川沿い・森鷗外文学碑前

【正】 第40回森鷗外を偲ぶ春の集い（3月26日）小倉駅前・森鷗外

京町旧居記念碑前

【お祝い】

・平野啓一郎さん（作家、愛知県出身・八幡西区ゆかり）が、『マチネの終わりに』（毎日新聞出版）で第2回渡辺淳一文学賞を受賞されました。



毎日新聞出版
2016.4

・高橋睦郎さん（詩人、現・八幡東区出身）が、句集『十年』（KADOKAWA）で第51回蛇笏賞、第16回俳句四季大賞を受賞されました。



角川書店
2016.9

心よりお祝いを申し上げます。

【お悔やみ】

・林えいだいさん（記録作家）が平成29年9月1日にご逝去。読売教育賞、朝日・明るい社会賞、青丘出版文化賞、平和・協同ジャーナリスト基金賞を受賞。田川市に私設資料室「ありらん文庫」を開設。

ご冥福をお祈り申し上げます。

市政モニターアンケート

北九州市立文学館は、平成28年11月に開館10周年を迎えました。

現在、文学館では、森鷗外や火野葦平、林芙美子、杉田久女など、明治から昭和にかけて活躍した本市ゆかりの文学者を貴重な直筆資料の展示や映像パネルを通して紹介しています。

今後も、多くの皆様に文学館をご利用いただけるよう、紹介する作家や展示方法などを見直した上で、リニューアルすることを検討しています。

リニューアルにあたり、市政モニターアンケートを平成29年5月に実施しました。アンケート結果は、リニューアル検討の参考といたします。結果の詳細は、市のホームページにて公開されています。以下はアンケート結果の概要です。

※市政モニター制度・市政に関心のある150人の方（市政モニター）にアンケート調査などを実施し、広く市民の意見を反映したまちづくりを目指す制度

平成29年度

第1回市政モニターアンケート

【北九州市立文学館JCSM】

1 調査概要

【調査対象者】

市政モニター 150人

（うち、回答者数135人 回収率90%）

【調査実施日】

平成29年5月8日～平成29年5月26日

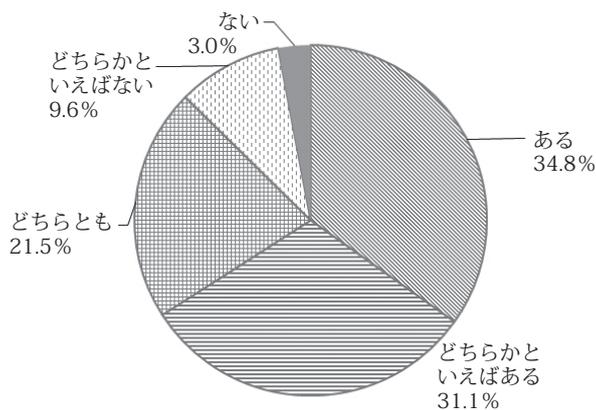
【実施方法】

調査票による郵送及びインターネット調査

2 調査結果概要

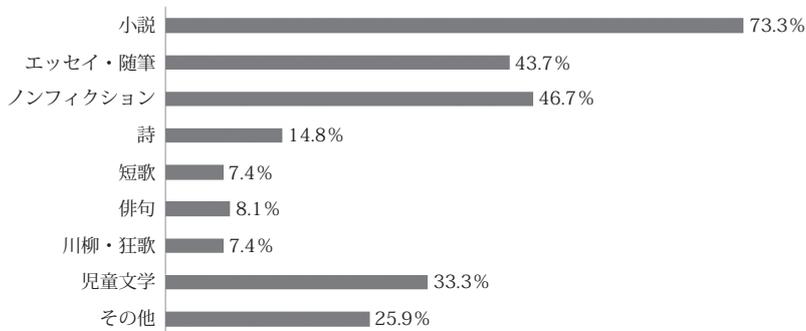
【文学への興味・関心について】

全体では、「ある」（34.8%）、「どちらかといえばある」（31.1%）の合計は65.9%と、高い結果が示されました。



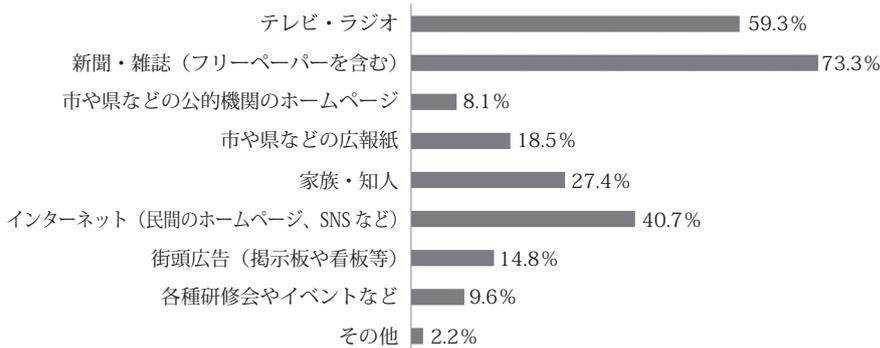
【関心のある文学の分野について】

全体では、「小説」（73.3%）が最も関心のある文学の分野との結果が出ました。



【文学に関する情報の入手方法について】

全体では、情報の入手の手段として活用されている媒体は、「新聞・雑誌（フリーペーパーを含む）」（73.3%）次いで、「テレビ・ラジオ」（59.3%）との結果が出ました。



世代別では、「インターネット（民間のホームページ、SNSなど）」を通じた情報の入手が20代（56.3%）、

30代（66・7％）、40代（50・0％）、50代（45・5％）、60代（21・4％）、70代以上（5・3％）と、世代により、情報の入手法に違いが生じていることがわかりました。

【北九州市立文学館の知名度について】

全体では、「知っている」（43・0％）「名称は聞いたことがあるが、よく知らない」（36・3％）、「知らない」（20・7％）との結果が示されました。

世代別では、「知らない」との回答が、20代（37・5％）、30代（29・2％）、40代（23・1％）、50代（13・6％）、60代（14・3％）、70代以上（10・5％）との結果から、若い世代ほど、知名度が低いことがわかりました。

【文学館の利用について】

設問4で文学館を「知っている」（43・3％）と回答した人で、「利用したことがある（年に1〜2回程度）」と回答した人が（46・6％）と最も高く、「利用したことがない」（46・6％）と同数であることがわかりました。

文学館の存在は認知していても、施設利用には至っていないことがわかりました。

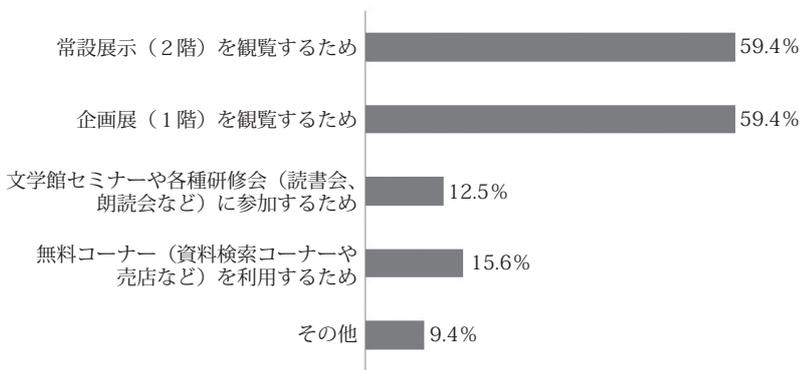
【文学館を利用したことがない理由について】

全体としては、「常設展の展示内容に興味がないから」（32・7％）が最も高く、次いで、「入館料が高いから」（22・4％）、「駐車場がなくて不便だか

ら」（22・4％）、「交通アクセスが良くないから」（20・4％）と続いています。展示内容の他に、文学館へのアクセスについても利用につながっていない要因となっていることがわかりました。

【文学館の利用目的について】

全体として、「常設展示（2階）を観覧するため」（59・4％）「企画展（1階）を観覧するため」（59・4％）が利用目的の大半を占めていることがわかりました。



【文学館利用の満足度について】

全体では、「満足であった」（71・0％）、「大変満足であった」（3・2％）、合計74・2％となっており、おおむね満足度は高いことがわかりました。

【改善すべきだと感じた点について】

全体では、「広報活動」（41・9％）、「常設展の内容」（38・7％）、「専用駐車場がない」（38・7％）、「子どもの体験学習、学校への出前授業など、子ども向けの教育内容」（29・0％）との結果が出ました。

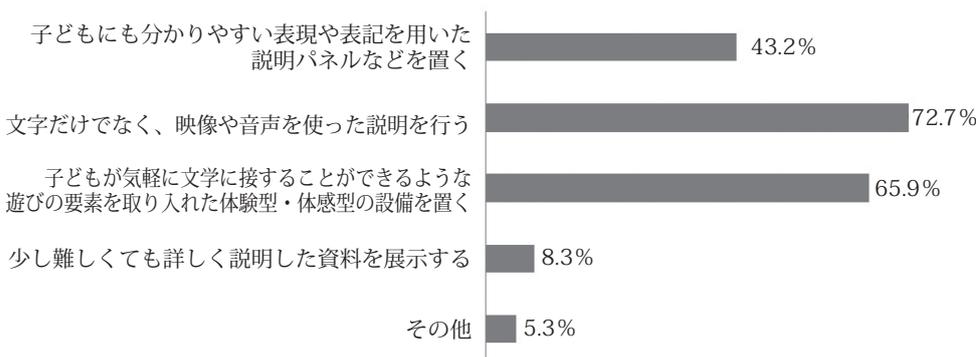
【知りたい文学者について】

全体の上位5名の作家は、「森鷗外」（62・7％）、「リリー・フランキー」（50・7％）、「松本清張」（50・0％）、「火野葦平」（47・0％）、「林芙美子」（39・6％）との結果でした。

「森鷗外」は、20代、30代では2位、40代から60代までは1位、70代以上では、3位となり、全世代を通じて興味を持たれている文学者であることがわかりました。

【子ども（小中学生）の利用のための展示方法について】

「文字だけでなく、映像や音声を使った説明を行う」（72・7％）、「子どもが気軽に文学に接することができるような遊びの要素を取り入れた体験型・体感型の設備を置く」（65・9％）、「子どもにも分かりやすい表現や表記を用いた説明パネルなどを置く」（43・2％）



た説明パネルなどを置く」（43・2％）、「少し難しくても詳しく説明した資料を展示する」（8・3％）と続き、子ども向けには、「詳しさ」より、「理解のしやすさ」が求められていることがわかりました。

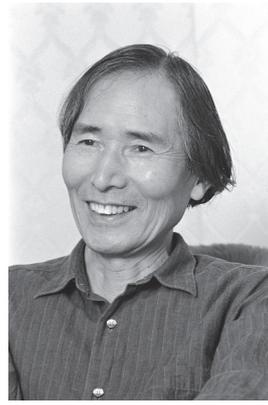
第25回 特別企画展開催予告

生誕90年記念

藤沢周平展

平成29年10月28日(土)

～平成29年12月10日(日)



藤沢周平 (写真提供: 文藝春秋)

第25回特別企画展は「生誕90年記念 藤沢周平展」です。本年は藤沢の生誕90年、没後20年の記念年です。展覧会ではまず、「藤沢周平を育てた郷土・鶴岡とその自然」と題し、作家の内面を育んだふるさと・鶴岡をご紹介します。それから、藤沢作品道を通ります。それから、藤沢作品を「武家もの」「市井もの」「歴史伝記もの」という三つの枠組で紹介いたします。その中で、自筆原稿や創作メモ、愛用した品々を展示いたします。また、書籍化された藤沢作品の装丁画、また今回の展覧会のために墨絵画家の涌井陽一氏が書き下ろした作品も展示予定です。

今なお多くの読者を魅了する藤沢

文学、その魅力を改めて感じていた
だければと思います。

イベント案内

篠田三郎さん朗読会

《講師》 篠田三郎さん (俳優)

《日時》 10月29日(日) 14:00～15:30

《会場》 北九州市立文学館交流ステージ

藤沢周平を読む(文学館友の会主催)

《日時・講師》

① 11月4日(土)

13:00～有門正太郎さん (有門正太郎プレゼンツ)

14:30～上西昭南さん (劇団青春座 O B)

② 11月23日(木・祝)

13:00～さかね啓子さん (語りどんとはれ)

14:30～葉山太司さん (飛ぶ劇場)

③ 12月3日(日)

13:00～平田伸介さん (劇団青春座)

14:30～古田美佐代さん (劇団青春座)

④ 12月9日(土) 13:00～15:00

【共読】 山口恭子さん、野口和夫さん (演劇作業室 紅生姜)

《会場》 北九州市立文学館交流ステージ

《講師》 担当学芸員

《日時》 ① 11月12日(日)、② 12月2日(土) 13:30～14:30

《会場》 北九州市立文学館企画展示室

寄贈者・提供者

青木徹、青森県近代文学館、赤磐市教育委員会熊山分室、阿部誠文、伊藤比呂美、茨木市立川端康成文学館、今村修、上田薫、大場チエ子、大佛次郎記念館、大山志津子、尾道市文化協会、神奈川近代文学館、鎌倉文学館、加留部謹一、菊池寛記念館、岸哲利、北九州市立美術館、吉良タツエ、久留島武彦記念館、群馬県立土屋文明記念文学館、高知県立文学館、向野利彦、国立民族学博物館、最相葉月、さいたま文学館、椎窓猛、品川洋子、高山市文化協会、田中七四郎、田原浩二、立平進、筑紫野市歴史博物館、沖積舎、東京創元社編集部、徳島県立文学書道館、長塚節研究会、中原中也記念館、中本吉昭、日本近代文学館、日本文藝家協会、沼津市芹沢光治良記念館、沼津芹沢文学愛好会、野田宇太郎文学資料館、波佐間義之、原賀いずみ、春野修二、姫路文学館、「ふくい風花随筆文学賞」実行委員会、福岡県詩人会、福岡市総合図書館、福澤徹三、ふくやま文学館、扶桑社、古谷龍太郎、文京区森鷗外記念館、前橋文学館、松本清張記念館、水木洋子市民サポーターの会、水口一

志、南相馬市埴谷・島尾記念文学資料館、宮川民子、武蔵野書房、森鷗外記念館(津和野町)、柳生じゅん子、安井浩司、矢田和子、山内克士、山中香織、やまなし文学賞実行委員会、吉屋えい子

提供雑誌

avant、青嶺、馬酔木、花鶏、あゆみ、あん、いのちの籠、色鳥、海第二期、鷗外、沖、海峽派、回遊、北九州国文、九州作家、九州俳句、九州文学、九大日文、群炎、月刊俳句界、玄海、コスモス、こだま、詩誌花、詩素、自鳴鐘、scripta、粼、船団、川柳くろがね、川柳むらさき、草原、空、タルタ、天籟通信、投稿俳句界、新墾、虹野、胚、浜木綿、ふよう、水城野、村、八雁、與謝野晶子研究、遼

2017年10月1日 発行 北九州市立文学館

〒803-0813
北九州市小倉北区城内4-1
TEL 093-571-1505
<http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/>

- 開館時間
9:30～18:00 (入館は17:30まで)
- 休館日
毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)
年末年始